

関係者各位

房総の祭りシリーズ特別編 放送

300年を超えて口伝される伝統の舞

ダイドードリンコスペシャル

忽戸の三番叟

こつと さんばんそう

千葉テレビ放送株式会社（本社：千葉県千葉市、代表取締役社長：篠塚泉、以下チバテレ）では、「房総の祭りシリーズ」と題して、夏から秋にかけて千葉県各地で開催される祭りを取材し放送しています。8月26日には、300年を超えて口伝される伝統の舞「忽戸の三番叟」を房総の祭り特別編として放送します。

【番組タイトル】ダイドードリンコスペシャル「忽戸の三番叟」

【放送日時】8月26日(日) 19:00~19:55

【番組概要】今回の舞台は、千葉県南房総市千倉町忽戸(こつと)。忽戸は黒潮に洗われる房総半島最南端の南房総市東端、海岸線に沿って伸びる千倉町にある157戸ばかりの小さな村落である。その忽戸で、父母や祖父母が子や孫に言い伝えてきた神事の伝統「三番叟」。起源は江戸時代、悠に300年を超えるものと推察され、日々生きる生活の知恵も含めて、忽戸の暮らしを形作り、五穀豊穡・安全祈願を祈り奉納されてきた。「三番叟」を演じることは、まさに忽戸の人々の生活の歴史の表現であり、今も忽戸に生き続けていることの証でもあるのだろう。番組では3ヶ月に及ぶ練習・準備の様子を通して人々の取り組みを描いていく。そして「三番叟」が取り結ぶ祖父母から孫に伝わる伝統と思いを伝える。



制作担当者 小森健一郎コメント

・千葉県の最南端に位置する南房総市千倉町。今回ご紹介する「忽戸の三番叟」は、150戸余りの小さな集落で、300年以上受け継がれてきたものです。かつては、千葉県内でも多く演じられていた三番叟ですが、南房総では現在、忽戸と近隣の平磯地区の2社だけとなりました。演じるのは小学生、中学生の少年たち。昔は演じる子の条件として、その年に禍のなかった家から11歳までの氏子の長男に限るとされてきましたが、時は流れ、町は衰退し、今は演じる子供がいなくなりました。これまで、当社では祭りの紹介とともにその継承についても、テーマとして取り上げてきました。今回も祭りの歴史や、背景、祭り人の思いとともに、祭りの継承についても取り上げてまいります。

※放送日時・内容は変更になる場合があります。